

クローズアップ



笑顔あふれるサクラの共演

4月3日から20日まで、赤城南面千本桜まつりを開催。物産市や芸能発表などいろいろなイベントも実施。約2kmにわたる満開のソメイヨシノと、隣接する「千本桜の森」に咲き始めたシバザクラとの共演を一目見ようと、多くの観光客でにぎわいました。



活気あるけやき並木に

4月17日、前橋プラザ元気21でけやき並木通り活性化勉強会を開催。前橋工科大と法政大の学生が研究成果を発表し、地元関係者が意見交換を行いました。学生ならではの自由な発想と地元関係者の思いが詰まった会となりました。

風車の下で春を感じて

4月11日、大胡ぐりーんふらわー牧場でさくらまつりが行われました。会場に咲き誇るソメイヨシノが淡いピンク色に染まり、シンボルの風車を引き立てていました。和太鼓などの発表や模擬店も出店。楽しい祭りとなりました。



絵本「天川町の話」文京町四丁目「のむかし」を自費出版。ひ孫に語り掛ける設定で文京町四丁目の昔を紹介している。土地区画整理事業で新しい道路が通るなど街並みが変わり、旧天川町の面影を、子どもたちに伝えたいと思ったのが作るきっかけ。「いろいろな人に読んでもらいました。子どもたちに読んでもらいたいと思いましたが、お年寄りに好評でした。多くの人に懐かしいと喜んでもらったんですよ」

取材にはスケッチブックを持って出かけた。ワープロで文章を作成し、手書きの絵を挿入する。前橋市史などで裏付けもしっかり確認した。絵本を読んだ人からは感想や面白い昔話を聞くことができ、多くの人と触れ合うことができたといい。

また、前橋高等女学校時代の同級生の手紙や消息などを年2回10ページ程度にまとめ「みやま通信」として配ることもライフワークの一つ。友人から来た手紙にコメントを添えて1冊の文集に。編集に時間がかかると友達から、病気で届いていないかと心配の電話が。通信が届くと感想や近況を語り合い、また長電話になる。

「みんな楽しみにしてくれているんですよ。嫌なことは直ぐ忘れて、楽しいことを続けるのが健康の秘訣です」

ことしで90歳を迎えるが、まだまだ元気。これからもいろいろな人と、とびきりの情報を発信し続けてほしい。

楽しいことを続けて健康に

いきいきまえばし人



絵本「天川町の話」を自費出版
片野 久子さん・89歳
文京町四丁目

いにしえ万華鏡 その十四

問い合わせは 文化財保護課 ☎2361-9531

里人の信仰心の表れ

旧文部省認定重要美術品 六地藏石殿

上毛電鉄膳駅から2キロ北上した粕川町月田にある月田近戸神社。その境内にあるのが六地藏石殿です。昭和18年に国の重要美術品に指定されたこの石殿。残念ながら、戦後の新しい文化財保護法による再指定から漏れ、旧法の重要美術品のまま現在に至ります。



当時の信仰を物語る

阿弥陀仏2月18日」と石殿が造られた年号と日が記されています。暦応5(1342)年は室町時代の初めの南北朝時代に当たります。地藏菩薩への信仰は、平安時代以降、極楽浄土への往生を願う浄土信仰とともに民衆に広がり、特に武士階級に広く受け入れられたそうです。

月田近戸神社は、赤城山と古くから深い関わりを持っていました。赤城山の地蔵岳は地蔵信仰と深く結びついた山だといわれています。現在行われている、二之宮町の二宮赤城神社から三夜沢町の赤城神社まで渡御する御神幸。これもかつては、月田近戸神社を経由していたという言い伝えも残されています。

本市周辺地域は、赤城山の神や仏によって守られていると考えられていた時代がありました。今でも、六地藏石殿は里人の深い信仰心の表れとして大切に守られています。